

「経営体験が自立心養う」

早期の起業家教育促す

学会主催
ベンチャー
日本など
セミナー

日本ベンチャー学会と電気通信大学共同研究センターは七月二十三日、起業家教育セミナーを、東京都調布市の電気通信大学で開いた。小中高校や大学で起業家教育を実施するNPOや企業の代表ら五人が、それぞれの取り組みや成果を報告。シンポジウムでは、子どもたちが起業体験をする意義と効果などについて話し合った。

初めに経済産業省関東経済産業局の久野美和子新規事業課長が、起業に対する社会の尊敬が日本は先進諸国の中でも極端に低いとの国際調査結果を紹介。「国の礎は教育であり、社会が混沌とした今こそ、自ら考え、挑戦し、失敗から学べる教育の立案や実施を行う例セ

育が必要だ」とスピーチした。このあとNPO・多摩起業家育成フォーラムの老川多加子研究員が、学校教員のベンチャー企業での研修の成果などについて報告した。また、全国で起業家教育プログラム



ルフウィングの平井由紀子代表取締役は、大学と地域産業界の協力で小中学生が会社経営を疑似

起業家教育の体験が子どもたちに与える影響などを話し合ったシンポジウム

体験した例などを紹介。「早期に起業家教育を体験することが、自立心やコミュニケーション能力の育成につながる」と強調した。

調した。

シンポジウムでは、青山学院大学で疑似ビジネスの授業を展開するYSBの岡田雅江取締役が「心の中にかぶせた蓋を取り除けば花開くし、子どもの方が、蓋が軽い」と発言。ベンチャー投資会社の日本テクノロジーズの村口和孝代表も「日本で起業が少ないのは島国で保守的だからだと、規制が多いためなどと言われるが、そんなことはない。大人は子どもにそんな思い込みを押し付けないで」と注文をつけた。